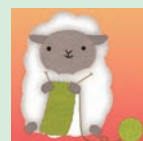




明けまして
おめでとう
ございます



新年を迎えて

社会福祉法人 いちいの会 理事長 児嶋 政明

新年あけましておめでとうございます。
今年、「いちいの会」の最初の施設である「くすのき苑」がスタートして15周年を迎えます。その間、くすのき苑に次いで、中核地域生活支援センター、グループホーム、ワークショップくすのき、相談支援センターなどつぎつぎと事業を拡充してまいりましたが、なお希望者のみなさまが多数待機され、当法人に対して高い期待が寄せられています。ここまで来ることができましたのも、ひとえに行政や関係諸団体のみなさまのご指導とご支援、地域のみなさまのご理解とご支援、家族会のみなさまのご理解とご協力、そして、役職員のみなさまの献身的なご努力のおかげであると思います。深く感謝するとともに、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。
社会福祉法人は、いま大きな転機を迎えつつあります。社会福祉法人に関して、ガバナンスや内部留保の問題、財務状況の開示、地域ニーズへの対応やイコールフットイングなどの問題が取り上げられており、当法人を取り巻く環境も大きく変わりつつあります。

このような中で、当法人がさらなる飛躍を遂げるには、足腰をしっかりと固めて前に進んでいくことが必要となってまいります。具体的には、いくつかの課題があります。

まず、利用者一人ひとりの人権尊重のもとに、生活の自立と社会参加のための多様な支援を推進すること。次に、施設機能を広く地域に開放し、地域福祉への貢献を目指すこと。そして、これらの実現を可能とするために、法人の経営基盤を強化し、事業経営の透明性を確保して、事業を確実、効果的かつ適正に行うこと。特に、リスク管理やコンプライアンス(法令等順守)を念頭におきながら、知恵と工夫を凝らして仕事を手際よく進めること。

いちいの会の長所は「明るく、のびのびとして、自由にものが言える」ところです。この長所を生かしながら、これらの課題に取り組んでまいりたいと思います。

みなさま、昨年中は本当にありがとうございました。そして、本年も引き続きご指導とご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



新年明けましておめでとうございます



社会福祉法人 いちいの会 総合施設長 清本 健二郎

昨年は当法人の前理事長西脇修司氏が逝去された。7月には新たに児嶋理事長が就任され、10月には総合施設長であった相馬伸男氏が退職し千葉県社会福祉事業団袖ヶ浦福祉センター更生園の施設長に就任され、その後を私が受け継ぐことになった。「魚は頭から腐る」というロシアの言葉がある。組織も同じで施設長が腐るとその周りが腐っていき最後には一番大事な利用者支援の現場にまで及んでしまう。今はまだ前任の施設長が築き上げた組織の中にいるが、今年は私が新たな風を吹き込んでいかなければならない。

くすのき苑開所から15年目を迎え、生活介護事業所、一体型指定共同生活援助事業所、中核地域生活支援センター、指定相談支援事業所と法人を拡大してきた。

今年の目標は「初心に帰り、次なる飛躍のために足元を固めること」である。「利用者第一、職員を大切に」との理事長からの宿題を念頭に、確かに歩いてゆく一年としたい。

本年も皆様方のご指導、ご支援を宜しくお願いいたします。本年が、皆様にとってより良い年でありますようにお祈りいたします。

くすのき苑

支援課長 大谷 篤司

新年明けましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。

入所されている方々の中に足腰が弱ってきている方や食事の際にむせてしまう方が年々増えてきています。また、行動に障害がある方達もあり、それぞれの特性に合わせた支援が必要となっています。くすのき苑では昨年、理学療法士を招き、日中活動の中でリハビリ等の指導をして頂いています。また、喀痰吸引の資格を取るための研修会や強度行動障害を持つ方を支援するための研修に職員を派遣する等、支援員のスキルアップと今後必要となる知識と資格を取得するため、実際に動き始めました。

今後の5年後、10年後を想定して、利用者さんがどのような生活を望み、安心して暮らすには何が必要なのかを私達は常に考えながら支援していく必要があります。まだまだ、目の前にある課題も上手く解決できず、皆様にご迷惑を掛ける事も多々あるかと思えます。

今年は試練に満ちた年になるかもしれません。今、私達にできる事、しなければならない事を一つひとつ確認しながら、利用者さんの笑顔を励みに「笑顔を与え笑顔を与えられる」そんな年でありたいと思います。

ワークショップくすのき

支援課長 戸辺 泰介

昨年は理事長の交代や、相馬前総合施設長の退任に伴う人事異動、新たなグループホームの開所など、法人の屋台骨の部分に大きな変化があった。

ワークショップくすのきも、年度後半から新しい職員を3人迎え、11月からは常勤職員の『グループホームゆりの木』での兼務も始まった。新しい動きに戸惑ったまま年を越してしまった印象もあるが、失敗、成功の諸々を含め、後の支援の向上につながるよう、職員それぞれが手探りながらも前向きに頑張っている状況なのだと思う。

今後、利用者のニーズも大小様々な変化が予想される。これまで積み重ねてきたものを活かしつつ、新たなニーズに対しても柔軟に伝えていきたい。

中核地域生活支援センターのだネット

所長・地域総合コーディネーター 金城 和子

明けましておめでとうございます。今年もよろしくお祈り申し上げます。昨年の9月末、中核地域生活支援センターの相馬伸男所長が法人を退職され野田市を去られました。当法人の総合施設長であると同時に野田市の自立支援協議会の会長であり、地域福祉の牽引者のお一人でもありました。相談者の権利侵害の対応、本人や家族のケアと尊厳の回復と再発防止策を講じる「権利擁護」に心を砕き、職員へも厳しい指導をしていただきました。「井の中の蛙、大海を知らず・・・」、世間知らずの私達を歯がゆく思われていたことでしょう。私達は、今こそ自ら立ち上がり、大海に船を漕ぎ出す時が来たようです。一人ひとりの力は微々たるもの、法人職員全員で取り組めば、どんな荒波も乗り越えられると信じています。共に泣き、笑い、苦楽を共にする覚悟が問われています。陰に陽向に一人ひとりを支えるためにどれだけ力を尽くしたか、が問われています。己の恥を知り、己に恥じない生き方が求められています。「私は、私が、私の、私に、私で、私も」と、私が一番の考え方はどうでしょう？「私はこう思う・・・あなたはどう思いますか・・・？」と会話で相手の心と繋がりたい。今年も相談業務に携わる者として、困難家庭や個々の相談者に対して真摯に向き合い、寄り添い、問題解決と共に明るい希望のある暮らしを目指したいと心に誓っています。

グループホームゆりの木 開所



平成26年11月

地域支援係長 佐々木 健志



外食、近隣の散歩等をしてゆっくり過ごしています。入居されて間もないうちは戸惑いや不安があったと思いますが、ようやく落ち着いてきたようです。支援体制としては10名の世話人さんと職員が交代で支援に携わり毎日2人体制で勤務に入っています。



昨年の11月1日に新しく「グループホームゆりの木」を開所いたしました。高齢の方がゆっくり生活できる段差の無いバリアフリー設計になっています。喧噪の暮らしが苦手な方が周りを気にしないで生活できるようにトイレ、バスも部屋に設置された個室もあり、入居される方をイメージしながら造ることが出来ました。賃貸の物件では消防法や建築基準法等の厳しい制約があり、今後グループホームを開設するには法人が新たに建設して行く時代になってしまうのかと痛感しています。

ゆりの木の入居者は、くすのき苑から4名、他のグループホームから3名の方が入居され現在7名(男性3名、女性4名)の方が生活しています。平均年齢は56.7歳で最高齢者は69歳です。日中は同法人の生活介護事業所へ通い、土日は買い物や



自分の思いや要求を上手く伝えることが苦手な方たちに対して、「気づくこと」「感じること」「考えること」を大事に支援したいと思っています。

法人全体では5ヶ所のグループホームを運営しており入居されている方は24名(男性16名女性8名)、世話人さんは27名の大所帯となりました。入居者の笑顔やありがたいの言葉を励みに、いちいの会のグループホームに入居して良かったと思ってもらえるように今後とも努力していきたいと思っています。



新任職員紹介



おおくぼ ひろあき
大久保 弘明

10月1日からワークショップくすのきでお世話になっている大久保です。前職では、知的障害者施設で1年ほど働いていたので、その経験を生かし、また早く新しい仕事を覚えて皆さんと一緒に頑張っていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

たかはし ひとみ
高橋 仁美



4月に和歌山から千葉に来ました。この地でご縁を頂けたことに感謝しています。お役に立つことが出来るよう全力を尽くします。どうぞよろしくお願いいたします。

相談支援センターいちいの木

センター長 菊田賢一

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

2012年4月、全ての利用者さんに対しての「サービス等利用計画書の作成」が義務づけられ、早いもので、作成期限があと3ヶ月を残すばかりとなった。まだまだ追いつかないのが現状だ。

相談支援センターいちいの木も他の機関と連携を取りつつ「障害福祉サービスがすそ野まで広く行き渡るように」との思いで相談を受けている。今後は、自分の仕事を振り返り、確かめる機会を作り、丁寧な相談支援活動を進めていきたいと考えている。また、療育相談にも力を注ぎ、利用者さんと早い時期に関わって、よりよい相談支援に結びつけていきたいと思う。



相馬伸男総合施設長 退任

「退任にあたって」

特別顧問 相馬 伸男



9月末日で、約10年努めたいちいの会を退職して2カ月が経ちました。退職を決意するまで、亡くなられた西脇前理事長や児嶋新理事長、役職員や家族会の皆様には大変なご迷惑をおかけしました。

こうして2カ月が経ち、法人職員の皆さんや利用者の皆さん、そしてご家族や野田市内関係諸団体の皆さんと過ごした10年の重さと充実感を改めて感じ、又、日々の生活の中で利用者の皆さんと一緒に食事をし、一緒に日向ぼっこをし、一緒に歌を口ずさみ、一緒に世間話の出来た緩やかな時間は、私にとって最高のものとなっていました。

「傍にいて、私がいることで貴方が少しでも楽しく、幸せ感を感じてくれる」こと、知識や技術は勿論必要ですが、「それを用いる人の生き方こそ大切」との思いはこの10年で一番強く学んだ事でした。

先日、電車で野田に来る際の風景はとても懐かしく、「遠いなあ」と思っていた電車での距離は、振り返りの大切な時間となっていました。

事業団での仕事は、10年前の緊張感とは違うものですが、これまで同様「利用者と同じ時間、同じ空気の中で過ごせること」を第一に、職員の下支えの仕事を始めています。

今回、寄稿の依頼がありましたが、「終わり方こそ大事」との思いを、紙面で挨拶することで形にすることが出来ました。

10年、たくさんの思い出と出会い、そして学びが出来たことを心から感謝いたします。ありがとうございました。



ありがとうの会

第一支援課長 猪野 恭子

9月24日、相馬総合施設長を送る「ありがとうの会」を行いました。

何も知らされていなかった利用者の皆さんは、相馬施設長がくすのき苑を退任することを聞き、「えーっ！」「なんで？」とザワザワ。それでも皆さんは、相馬施設長のお話を真剣に聞きました。そして次々に前に出てきて、そ

れぞれが相馬施設長への感謝の気持ちとさようならを一生懸命伝えました。

普段から、昼休みに利用者さんと一緒に日向ぼっこをしながらお話ししたり、時には歌ったりしていた相馬施設長。毎日のように「相馬さん、相馬さん」と事務所に呼びに来ては、施設長とお話しすることを楽しみにしていた利用者さんもいました。自然と周りに人が集まり笑顔がたえない、そんな雰囲気は私達職員も大好きでした。相馬施設長とくすのき苑で過ごした10年、利用者の皆さんはきっと忘れないことでしょう。



職員日記

主任生活支援員 増淵 歩美

くすのき苑で働き始めてから、7年が経ちました。この7年間、新しい発見が毎日あり、楽しく仕事をさせてもらっています。

この仕事をしていくうえでチームワークはとても大切ですが、休日は1人で過ごすことが大好きな私です。「今日はあれをしよう」と考えるのがとても好きで、休日の朝はとてもワクワクしています。1人で買い物に行ったり映画を見たり、仕事の日には出来ない掃除を徹底的にしたり…。今後チャレンジしてみたいことは一人旅です。時間があつたらぜひ挑戦したいと思っています。

1人の時間を楽しむ、自分の好きなことをすることで、リフレッシュすることが出来、「また明日から仕事を頑張ろう！」という気持ちになります。これからも誰かと一緒に過ごす時間も、1人で過ごす時間も大切にしていきたいと思っています。



くすのき祭



実行委員長 秋山 直樹

平成26年11月2日(日)、くすのき苑にて「第14回くすのき祭」が開催されました。前日の雨で開催が危ぶまれましたが、天気予報といちいの会全員の気持ちを信じて準備を進め、当日は無事晴天の下開催することが出来ました。

今年も地域の方々に協力を仰ぎ、木間ヶ瀬小学校吹奏楽部の皆様は合唱とリコーダーで「上を向いて歩こう」等、誰もが知っていて楽しめる曲を披露してくれました。関宿高校吹奏楽部の皆様は様々な楽器を用いてメドレー曲を演奏、更にはくすのき祭名物のえだまめマンを巻き込んでの演奏で会場を沸かしてくれました。また、今年は栃木県からお猿さんに来て頂き、可愛らしいお猿ショーを披露してもらいました。芸達者なお猿さんたちに会場は大いに盛り上がりました。そしてくすのき苑からは、毎日一生懸命に練習した利用者の方々によるダンス発表、少しも寒くないありのままの職員発表、豪華景品が盛りだくさんの大抽選会と、楽しいイベント目白押しのドキドキワクワクのお祭りになりました。

そんなくすのき祭、なんと500名程の方々が足を運んでくださいました。お祭りは開催する側だけではなく足を運んで下さる方々がいて初めて成立するものです。準備のためにご協力頂いた皆様や当日足を運んでくださった皆様のおかげでくすのき祭は大成功を収めることができました。皆様の力で成功したくすのき祭、今度は私たちが皆様の何かを成功させる力になれるよう歩いていければと思います。くすのき祭に関わったすべての方に、心から、ありがとうございます。



行事いろいろ / 旅行いろいろ



おひさまといっしょに

支援員 吉田 寛貴

9月20日、「おひさまといっしょに」が野田市東部小学校を会場に開催されました。

当日は曇り空の下ではありましたが、様々なレクリエーションを東部小の生徒の皆さんと手を取り合って行うことができました。終盤には東部小の生徒の皆さんを中心に「よさこいソーラン」を踊り、会場が一体となり、充実した一日を過ごすことが出来ました。



福島1泊旅行

9月18日～19日

福島の喜多方、会津と猪苗代湖に行ってきました。喜多方といえばご当地ラーメン。名物のおいしいラーメンを楽しみました。会津では鶴ヶ城を見学しました。鶴ヶ城では、江戸時代の生活や白虎隊の歴史、火縄銃や日本刀の重さ体験などなかなかできない経験をしました。

ビリーブ班ピクニック外出

支援員 小澤 祐子

11月初めにビリーブ班であけぼの山公園に行ってきました。ファミリーレストランでテイクアウトしたお弁当を公園で広げ、ピクニック気分。風は強かったですが皆さん自分のお弁当はしっかり守っていました。のどかな空気の中、満開のコスモスと風車を見ながらのお散歩、とても気持ち良かったです。



茨城1泊旅行

10月9日～10日

1日目の牛久大仏では雨がぽつぽつと降り始めましたが、大仏様のおかげか雨がやみ楽しく観光することができました。2日目の阿見アウトレットパークでは、お買いもの大好きな皆さん。思い思いの買い物を楽しんでできました。美味しいご飯とお買い物で、気分もリフレッシュ！とても楽しい旅行になりました。



行事予定・販売予定



1月	帰省／帰苑日(12/27～1/4) 新年会	イオンタウン販売会
2月	1泊旅行、ゆうあいピック駅伝大会 手をつなぐ作品展、木間ヶ瀬地区社協祭り	イオンタウン販売会
3月	理事会	イオンタウン販売会 テクノシップ販売会

編集後記

明けましておめでとうございます。昨年より法人が大きく変化し、新しい風が吹いています。この“いちいの会だより”で皆さんに新しい情報を提供できるよう努力します。今年もよろしくお祈いします。（水田）

新年あけましておめでとうございます。毎年3日坊主になってしまう今年の抱負ですが、今年は「計画的に予定をたてる」ことです。去年は挫けてしまいましたが今年こそは達成したいと思います。（中山）

社会福祉法人いちいの会

〒270-0222

千葉県野田市木間ヶ瀬3121

E-mail: kusunokien@nifty.com

URL: <http://homepage3.nifty.com/kusunoki/>

TEL: 04-7120-6667

FAX: 04-7120-6668

編集委員 水田 秀人
中山 明日美

